

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491000077		
法人名	福祉オフィス中村		
事業所名	海岸通り グループホーム南風		
所在地	三重県尾鷲市新田町21番地5号		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町提出日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2491000077-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2491000077-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 29年 12月 4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で利用者同士が共同生活を意識出来るような空間作りと、開放的な環境の下、本人本位、自発的な日常生活が送れるように支援する。  
各利用者の有する能力が発揮できる環境作りと支援を心がけている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は少し高台にあり、そこからは尾鷲市の街や尾鷲湾、それを見下ろす天狗倉山を見渡すことが出来、大変景色の良いところにある。事業所は、管理者を始め職員の笑顔が絶えず、大変明るく、温かい家庭的雰囲気にも包まれている。利用者の個性や自発性、又、機能訓練を大切にして、その人の持っている能力が出来るだけ発揮できるように支援が行われている。そうした中で、利用者の皆さんは、元気が良く、又、ゆったりとその人らしく生活を楽しんでいる。又、時々、地域の人々がコーヒーを飲みに来るなど、地域の人に親しまれている事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、事業所の目的を定期的に会議の場等で理解し、共有している。	職員は、理念を自分の言葉で伝えることができる様に身につけ、職員間で共有しながら実践の中で常に理念に立ち返るようにしている。理念でうたわれている利用者の持つ能力、自発的な行動を大切に支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流が持てるように地域の催し物等に参加している。近隣住民との日常的な関わりを持っている。	地域の行事に参加したり、近くの学校との交流や地域の人が時々来訪し、演奏等を聞かせてくれる。また、野菜の差し入れや、気軽に立ち寄ってコーヒーを飲んでいただくと地域の人もあり、散歩の際や事業所の前で座っていると地域の人が声を掛けてくれたりする。	地域包括支援センター等が行う認知症の人や家族の集まり等にも出来るだけ参加し、地域の人との交流をより一層広めながら、認知症の人が安心して暮せる街作りへのより一層の貢献を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた研修は、行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議は、必ず開催している。事業所の取り組み、利用者の状況等を説明、報告を行っている。委員からの意見や要望等を運営に反映し、質、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行っている。事業所の運営についての率直な意見交換が行われ、地域の色々な情報交換も行われている。事業所のサービスを客観的に振り返る良い機会ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員、民生委員、包括支援センターの職員に出席していただき、又、開催文書を手渡しする際に意見交換を行う等、努め、連携、協力体制を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市の担当職員が参加し、市を訪れた時等に情報交換を行い、協力関係を築く様にしている。随時、法制度等についての教示をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で全職員に身体拘束の内容と弊害を正しく理解するよう努めている。身体拘束については、現状報告、改善点の話し合いを定期的に行う義務を認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関を始め施錠はしていない。ケアの中で、拘束と思われる気になる対応があれば、その都度、職員間で話し合っている。内部研修(年一回)も行いながら、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルの作成、内部研修等で職員間の理解を深めると共に出来る限り、職員の介護負担の軽減を図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて年に1回、必ず学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族が分かりやすい言葉を選び、丁寧な説明を基本とし、不安や疑問に真摯に対応できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員は、家族と介護者との関わりを理解し、大切にしている。要望、希望等が表しやすい雰囲気作りと信頼関係を育めるように努め、利用者、家族からの意見を運営やケアに活かしている。	利用者本人の状況をつつみ隠さず、家族に確り伝えながら、家族が意見を言い易い様な信頼関係作りに努めている。家族が事業所訪問したときには、家族に対し、職員が「お世話になります」と挨拶する様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が出席可能な日を選び、月1回以上の会議を開催。現場での意見交換、提案、要望等を元に運営に反映できるよう努めている。	定例の職員会議や日常の中で、職員が意見を言い易い様な職員間の関係作りに努めている。年に1回、代表者や管理者と職員とが個別に意見交換できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に目標の設定や個人面接、自己評価を含み、意見交換を行っている。職員が働きやすい環境に配慮し、モチベーションの維持、向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修や外部研修に参加し、個人が習得したことについて内部研修等で活かしている。職員一人ひとりの熟成過程を把握し、その職員に合ったトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席させていただいている。その場の雰囲気や意見交換、活動、事例等を参考にし、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心出来る環境の中でコミュニケーションを図りながら、利用者の要望、不安の要因等を察し、本人の意向に沿えるように努めている。本人の安心がどこにあるのかを探りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の関わりを理解し、重視している。家族の思いや要望等、しっかりと聞ける環境を整え、適切な支援が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況の把握を元に家族と相談し、現時点で必要なサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人としての関わりを大切にしている。家族に近い関わり方、支援に取り組み、楽しみを持って個性的に共同生活が送れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が家族を想う気持ち、家族が利用者をつまむ気持ちに寄り添い、絆を継続していける役割が持てるよう努めると共に利用者、家族、職員との関係との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り地元のお祭りや催し物に参加し、馴染みの人との交流や馴染みの場所への外出を行えるように努めている。家族との外出や外泊も自由に行っている。	利用者の地元の祭りに参加する等、馴染みの人との交流や馴染みの場所への外出支援を行っている。家族との外出・外泊等をする利用者もいる。買物行ったとき等での知り合いの人の交流も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中でお互いを認め合い、尊重できる関係作りの機会を設け、サポートしている。利用者同士の関わり方の把握し、尊重に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の催し物等に声をかけ、気軽に相談や立ち寄れる環境作りに努めている。野菜がとれる時期等には収穫した物を届けてくれるなどの関わりが継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と密に関わりを持ちながら思いや意向を汲み取れるよう勤め、日常生活での不満等を察しながら職員間で検討を重ねている。本人本位の支援に取り組んでいる。	一人ひとりの利用者の気持・思いについて、決め付けない様心掛け、職員間の意見交換を大切に、本人の意向を汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や馴染みの方をはじめ、利用者本人からの情報を元に生活歴を把握していく。日常生活の中から馴染みの生活が発見出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由な時間、開放的で自己主張が雰囲気作りを整え、共同生活でのストレス軽減が図れるよう関わりを持っている。関わりの中で利用者が出来ることを探し、有する能力が発揮出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身の状態の把握を職員間で共有し、思いや意向に触れる機会を増やしている。利用者との関わり方で得た情報をモニタリングに反映し、現状の課題を抽出した後、適切な介護計画書の作成に努めている。	本人・家族と十分話し合いを行ない、職員からの意見を踏まえ、介護計画を作成している。三ヶ月に1回の見直しと随時の見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の意思、意向等が読み取りやすい記録を心がけ、職員間で共有しやすいように努め、介護計画やケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の意向を重視し、必要に応じて柔軟な対応を心がけ、家族に理解を深めていただけよう努めている。既存のサービスに捉われない支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民と日常的な関わりを持ち、継続できるように努めている。自由で開放的な日常を営むことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診、相談等で適切な医療を受けられ、利用者と家族、かかりつけ医(主治医)との関係を築いていけるよう努めている。	本人・家族の意向によって、かかりつけ医を決めている。受診支援は、家族と共に行い、主治医との連携を大切に、指導を受けながら適切な医療が受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に相談を行い、意見、情報の交換を行いながら連携を図っている。協力医の指導も受けながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当のケースワーカーと情報交換を行い、利用者の理解を深めいただきながら利用者が安心して治療を受けられるように配慮している。担当看護師も同様、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、又は、定期的に家族との話し合いを持っている。可能な限り看取りまで行いたいのが該当者なし。事業所で出来る限りの説明は行っているもののきちんとした指針の作成はない。	終末期の支援については、入居当初から、本人・家族と話し合っている。事業所では、これまで看取りを行なった実績は無いが、本人・家族の希望があれば看取りを行っていく方針であり、協力医の了解も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成と職員全体で共有している。定期的な見直し、訓練を行いながら実践力を身に付けていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、定期的に防災訓練を実施。避難訓練、消火訓練は、必ず、実践し、近隣住民の協力も得ている。新人職員の場合、AEDの指導も受けている。	年2回、避難訓練や消化訓練の防災訓練を実施している。訓練の際には、地域の協力も得ている。夜間想定訓練を行ったこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を常に尊重できるよう職員全体で心がけ、基本的な人との関わり、礼儀作法を用いて日常のケアに取り組み活かしている。ファイルや個人情報は、厳重に保管している。	人としての人格を常に尊重し、言葉使いにも注意を払って対応している。利用者との関係で、「慣れすぎない」という姿勢を大切に、ケアに心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で可能な限り自己決定を促し、本人本位の支援に取り組んでいる。又、自己決定が困難な場合、表情や仕草で察し、利用者の思いに近づけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に慣れすぎないことを意識し、利用者の思いや感情を出せる環境を整え、配慮した支援に取り組んでいる。一人ひとりのペースに合わせ、利用者の時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容、外出時、気分転換等、その時々で利用者の好みに合わせ、お洒落を楽しめるよう努めている。職員と共に楽しんで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事作りまで可能な限り利用者と一緒にしている。昼食は、職員も同じものを頂き、食事中はにぎやかに楽しい時間となっている。配膳、下膳は、有する能力に応じて行っている。	利用者の食べ方を見て好みを判断し、意向に添った食事作りをしており、バイキングを楽しんだりもしている。買物・調理・配膳・下膳等を可能な限り利用者と共に行い、ご飯は利用者自身で盛り、職員と一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な食事作りを心がけ、出来るだけバランスを考えた食事を提供している。こまめな水分補給で体調管理に努めている。個々の嗜好に配慮し、本人、家族からの情報を参考に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った適切な支援を行っている。可能な限り自力でのケアを行い、出来ない部分はサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を定期的に見直し、把握に努めている。特に日中は、トイレでの排泄を気持ちよく行えるよう自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排泄習慣などを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立支援を行っている。夜間のみ、オムツ利用者が3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に配慮し、朝食後には、毎日バナナヨーグルト、牛乳を提供。水分補給、適度な運動を行い、排泄しやすい身体作りと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆず湯、菖蒲湯等、季節を感じられるお湯や利用者が好む入浴剤を使用しながら楽しく入浴が出来るよう工夫している。入浴日や入浴時間に決まりはない。	毎日、時間を決めず、本人の意向に添って入浴支援を行なっている。1～2名の入浴を拒否する利用者については無理に勧めない様になっているが、3日に1回程は入浴している。ゆず湯・菖蒲湯等季節感のある湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣が維持でき、利用者の思いに沿って休息できるよう配慮している。日中、適度な運動、余暇活動等が出来、安心して睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を重ね、職員間で共有している。服薬前後の状態の把握は勿論、変化が見られた時には、主治医との連携が図れるよう体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の個性を活かし、自信や張り合い、役割に目を向けた支援に取り組み、喜びにつながれるように支援をしている。時には、楽しむことを大勢で分かち合いながら気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外食等、日常的な外出支援に取り組んでいる。地域の催し物に参加する際は、馴染みの方との交流を楽しめる場であり、家族との外出も行っている。	散歩・買物等の日常的な外出の他、地域の行事や外食、花見、初詣等へも出掛けている。家族と外食・外泊に出掛ける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解があれば、本人の希望に沿い、所持していただいている。個々の買い物では、ご自分で支払う等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親族との電話連絡は自由に行えている。利用者から家族に季節ごとに贈る手紙、はがきの支援に取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースである居間は、季節を感じられる装飾にしている。装飾は、利用者と一緒に作成することで季節や装飾物についての話題に触れる機会も多い。照明は、明る過ぎず、目に優しい物を選び、全体的に家庭的な雰囲気を出している。	居間(食堂兼)は、明るく、ソファーが置かれ、ガラス戸の向こうには天狗倉山や尾鷲湾が広がっている。壁には、利用者と一緒に作った紙細工の雪だるま等の装飾品や行事の写真等が展示され、併設の台所からは食事の香りがたぐい、家庭的な雰囲気である。トイレ・浴室等も清潔で十分なスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にベンチを配置し、気の合う者同士の交流の場となっている。居間にはソファー、畳を置き、共有スペースの心地よさと個々の活動が自由に出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みのものを配置し、一人の空間が居心地の良いものとなるよう利用者、家族と相談している。家具の配置については、利用者の希望と動線に配慮している。	本人や家族と相談し、家族写真、筆筒、テーブルや椅子等置かれて、本人が落ち着き、安心して過ごすことが出来る様配慮された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所等に目印を付け、利用者が見て分かりやすいように工夫している。共有スペースは、バリアフリーになり過ぎないよう家具の配置、動線を確保し、安全を優先し、利用者の有する能力が維持できるよう努めている。		